

問題

スペンサーの社会進化論について説明せよ。

解答のポイント

東京都 I 類 B では、平成 23 年にほぼ同ジャンルのテーマ（「コントによる社会静学及び社会動学について述べた上で、コントの三段階の法則を説明せよ」）が出題されている。また、スペンサーを単独で書けるほどの内容は一般的な社会学の教科書には掲載されていないため、本年のテーマは予想外であった。

そのため、以下は模範答案（絵に描いた餅）ということで約 800 字の文章にしてあるが、実際は基本的な内容だけ書ければ十分だろう。

1. 社会進化論についての定義

まずは、社会進化論が社会の歴史的変動について、生物進化論の影響を受けつつ説明しようとした理論であることを述べておきたい。

2. スペンサーの議論の時代的背景

スペンサーが社会進化論を述べた 19 世紀中ごろのイギリスという時代の特徴として、産業革命と自由放任主義経済による経済的発展について触れる。

3. スペンサーの社会進化論の内容

最低限、押さえるべきは、①社会有機体論、②進化の一般原理（同質なものから異質なものへ）③「軍事型社会から産業型社会へ」の流れ、である。

4. スペンサーの社会理論の今日的意義

一方では大規模な社会政策が要請された大恐慌以降、「適者生存」の自由主義経済の主張が説得力を喪失したこと、他方では今日まで続く機能主義的理論の先駆となったという功罪を挙げておけばよい。

上記のうち、「3. スペンサーの社会進化論の内容」が一通り書かれていれば、合格ラインは超えるだろう。また、本稿では採り上げなかったが、コントと対比して説明してもよい。ただし、その場合はスペンサーが主役であることを忘れないこと。コントの説明の方が多くなってしまうのはバランスが悪い。

解答例

社会進化論とは、ダーウィンの生物進化論に基づいて、社会の歴史的変動を説明しようとした理論であり、社会学説史的には社会発展段階論の一つである。

スペンサーが社会進化論を唱えた 19 世紀中葉のイギリスは、ナポレオン戦争等の対外戦争に勝ち抜き、折からの産業革命と国家の経済的規制を最小限にすべきとする自由放任主義的政策とが奏功して未曾有の経済的繁栄を謳歌していた。

そのような時代背景にあって、スペンサーは、社会を生物有機体に見立ててその進化を説明しようとし、両者の類似点として成長・機能分化・相互依存・進化等を挙げて社会有機体論を唱えた。その主張の基礎をなしたのが進化の一般原理であり、スペンサーは、進化とは不確定な同質性から確定的な異質性への変化であるとした。これを社会に当てはめると、役割分化が進んでいない原始共同体では人々の専門分野は不確定でみな同じような仕事をし、分化が進んだ近代社会では専門分野が明確化され各々が異なった仕事をするようになることを指す。また、有機体と社会とをともにシステムとみなす立場から、両者に共通する機能として、他のシステムに対抗する必要から生まれた規制機能とその上で自らを維持する機能とを見出し、一方で、前近代社会を規制が強く働く軍事型社会であるとし、そこでは個人は全体の目的の為にあるので自由はなく協働を強制されるとし、他方で、近代社会を維持が強く働く産業型社会であり、個人の為に全体があるので個人の自由が尊重され自発的協働がみられるとした。

このようにスペンサーは個人の自由の実現と産業社会の到来とを社会の法則であると考えて、生物進化論における「適者生存」のアイデアを経済活動にも適用し、社会福祉などの国家介入に強く反対した。そのため、その主張は世界恐慌後の大規模な社会政策の時代に至って人々への影響力を失ったが、その発想は後の構造-機能主義理論の先駆として重要な意義を持った。

以上
(800 字)